

センターの機能

H29.11.27

市民活動支援センターのあり方検討委員会

これまでの振り返りと本日の内容

回	日時	場所	内容(案)
1	7/17(月)13時～	市民室	概要説明、ワークショップ・意見交換
2	8/28(月)13時～	102会議室	センターの設置の目的と役割、センターの機能について(ワークショップ①)
3	9/5(火)	視察研修	先進地視察(四街道市、富里市)
4	10/18(水)13時～	505会議室	茂原市ボランティアセンター(茂原市社会福祉協議会)との連携
5	11/27(月)13時～	102会議室	センターの機能について(ワークショップ②)
6	12/18(月)13時～	102会議室	センターの施設及び設備について、センターの運営について
7	1/29(月)13時～	102会議室	センターのあり方に関する提言書(案)について(その1)
8	2/26(月)13時～	102会議室	センターのあり方に関する提言書(案)について(その2)
9	3/23(金)13時～	102会議室	センターのあり方に関する提言書について

ボランティアセンターについて



H29.10.18第4回検討委員会 社会福祉協議会 岩村副主査

- 市内のどこでどのような活動をしているかという把握については、とても重要なことであり、コーディネーターとしては、そこが最も大切であると思う。
- 登録団体に対応できないものであっても、地域にある社会資源の活用によって対応することができることもある。
- 市内在住であるかどうかを問わず、茂原市にとって良い活動であるかどうか重要である。市内の団体の活動が広がって、市外でも活動したり、逆に市外の方が茂原市内で活動したりすることもある。



アドバイザーからの助言①



H29.10.18第4回検討委員会 NPOクラブ 牧野代表

- 居場所づくりに取り組む場合、まずはそれが大事だと思う人が集まり、地区ごとに民生委員や町内会長などが集まり、「私は〇〇ができる」などというように広がっていく。そのような人たちを引き出すことが、コーディネーターの役割である。
- 多世代交流拠点である「おおなみなみ」は、単なる居場所であるが、赤ちゃん連れから高齢者まで、さまざまな人が集まっている。その中で、編み物が上手なおばあちゃんがいて、習いたいママがいて、自発的に編み物教室がスタートした。
- 集まることのできる状況をつくる必要がある。若い人は若い人だけ、高齢者は高齢者だけということは、決して良いことではない。



アドバイザーからの助言②



H29.10.18第4回検討委員会 NPOクラブ 牧野代表

- 相談は、掘り起こさなくてはならない。
コーディネーターがセンターの窓口で待っていても誰も来てくれない。
- 情報を取りに行くことが重要である。商工会議所や学校などの行事にもどんどん出かけていく。
- 積み重ねていくことによって、市役所の担当課もセンターに顔を出すようになった。
- 情報を発信する場合、Facebookページなどを活用している。
市や社会福祉協議会の後援を得ておくと、地域の回覧版で回覧するときに通りがよい。



アドバイザーからの助言③



H29.10.18第4回検討委員会 NPOクラブ 牧野代表

- 市民活動支援センターに求められる機能
 1. 相談対応力
 2. 調査・情報収集力
 3. 情報の編集・発信力
 4. コーディネート・ネットワーキング力
 5. 資源の掘り起し・提供力
 6. 人材育成力
 7. 政策提言力



アドバイザーからの助言④



H29.10.18第4回検討委員会 NPOクラブ 牧野代表

・市民活動団体の運営資源

1. 目的
何をする団体か、解決する課題は何か
2. 人材
役員、スタッフ、ボランティア、支援者
3. 情報
情報収集、整理、発信
4. ネットワーク
信頼できる分野ごと、地域ごと
5. 資源
自主財源（持ち出し、会費、寄付、事業収益）
他主財源（助成金、補助金、委託金等）



第4回検討委員会WSより①



(仮称)市民活動フェスタ/まちづくりフェア・ 市民活動支援センター1dayオープン 仮想企画会議(フィッシュボウル形式)

- ・市役所の9階フロアや1階エントランスを会場に
- ・茂原市の特長を生かしたイベント 例:天然ガス
- ・七夕まつり、六斎市を後の世代に。昔の様子を再現するの一案
- ・「茂原の七夕まつりをもう一度盛り上げよう」というテーマに絞って開催(七夕まつり期間中に)
- ・六斎市でのシャトルバスの運行、学生ボランティアによる買ったものの搬送など



第4回検討委員会WSより②



(仮称)市民活動フェスタ/まちづくりフェア・
市民活動支援センター1dayオープン
仮想企画会議(フィッシュボウル形式)

- ボランティアセンター登録団体にアトラクションを依頼
- 100歳体操に絡めて、子どもからお年寄りまで参加できるようなものを
- 企業の協賛を得て、サンプル商品の提供を受ける
- 幅広い人たちに参加を呼びかけ、ブースでPR
- 手助けを必要な人と手助けできる人のマッチング
- 敢えて手書きの良さを訴えるチラシづくり
- いろいろな人を巻き込んでいく



第4回検討委員会WSより③



(仮称)市民活動フェスタ/まちづくりフェア・
市民活動支援センター1dayオープン
仮想企画会議(フィッシュボウル形式)

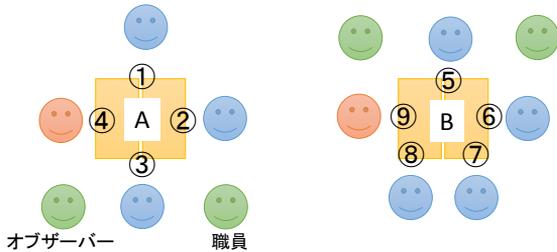
- 7月7日の七夕の日(覚えやすい)
- 織姫と彦星が出会うように、市民活動団体と手助けできる人が出会う場で、種をもらって持ち帰り、水やりをして花を咲かせる
- 人と人が出会えば、必ず何かが生まれる
- 七夕のストーリーに乗せて、マッチングした場合は星の地域通貨がもらえるなどのグランドデザイン
- やる気と本気さえあればできる
- 競わせないと、人は動かない



ワークショップ



変則版ワールドカフェ



失敗を恐れず自由な発想で
アイデアの質より量
否定よりほめる
時間を守る
必ず全員が発言する

1. ④番、⑨番の席に座った方がその回のセッションの進行役となります。
2. 番号の若い順に、アドバイザーから助言のあった7つの機能を、「自分のことばで言い表したらどうなるか」という意見を出し合います。
3. 発言している人以外の人には、発言に耳を傾けながら、テーブルの上のA3用紙に発言内容や自分の思ったことなどを書き留めていきます。
4. 発言が一巡したら、それぞれ書き留めたメモを見せ合いながら、良いと思うアイデアについて話し合い、進行役が記録用紙に書き留めます。
5. 時間が来たら席替えます。今まで座っていた番号の次の席に移ります(9番の人は1番に移ります)。
6. 新たに④番、⑨番に座った方は、もう一方のテーブルから移ってきた方に、前のセッションでどのような話し合いがあったかを簡単に紹介してから、次のセッションをスタートします。
7. 3回のセッションを終えたら、いったん休憩を挟み、さらに4回のセッションを行います。